

二ナ目（中腹足目）ヤマクルマガイ科

ヤマクルマガイ

Spirostoma japonicum japonicum (A. Adams, 1867)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

ヤマクルマガイは、本州の近畿以西から、四国、九州にわたって、広い地域に分布する陸産貝である。しかし中国地方においては、山陽側では分布域の広い陸産貝であるが、山陰側では分布が少なく、県西部の限られた地域にしか見られない。

【概要】

殻はかなり小さく、殻経14mm前後の扁平状である。螺層はほとんど高まらない。臍孔は広く深い。殻口は甚だ斜めでほぼ円形である。殻色は黄褐色である。蓋は高い

円錐形で中空、角質の螺旋板をもつ、面白い形をした蓋ということである。活動している時、体の近くにある蓋は殻の臍孔の空いた所に入れている。

【県内での生息地域・生息環境】

県西部の鹿足郡の広葉樹林の砂礫の多いようなところに生息する。

【存続を脅かす原因】

開発により生息地が失われている。広葉樹林の保護維持を図ることが必要である。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○				○													

二ナ目（中腹足目）アズキガイ科

アズキガイ

Pupinella rufa (Sowerby, 1864)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

アズキガイは、本州（中部以西）から四国、九州にわたって、広い範囲に分布生息する陸産貝である。分布範囲は広いが、生息地が限られおり、中国地方の場合、山陽側は生息地がかなり点在しているようであるが、山陰側は生息地がきわめて少ないのが現状で、県西部の益田市のみであり稀産種である。

【概要】

殻の殻高は10mm前後、殻径は5mm前後、螺層は6～5層位の小型の陸産貝である。殻は厚く堅固で殻色は深紅

色のアズキ色をしているのでこの名がある。殻口は垂直的で円く、口縁には1対の深い溝状の切れ込みがある。蓋はうすい革角質で円い。臍孔は軸唇に覆われて殆ど閉じる。

【県内での生息地域・生息環境】

山陽側では広い範囲で確認されているが、県内にもまだ未調査の生息地がある可能性が考えられる。

【存続を脅かす原因】

広葉樹林等生息地の保護維持を図ることが必要である。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○				○													

二ナ目（中腹足目）ムシオガイ科

イトウムシオイガイ

Chamalycaeus itonis itonis Kuroda, 1943

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

【選定理由】

奇抜な貝殻を持つムシオイガイの亜種である。本種は岡山県、広島県、山口県の石灰岩地帯と島根県、愛媛県の非石灰岩地帯に分布する稀産種である。県中部や東部からは未記録である。

【概要】

貝殻は微小で殻径4.5mm、殻高2.0mm、低円錐形。呼吸管が出る付近の螺管部が極端にくびれた後、急に膨らんで殻口へ向かう。

【県内での生息地域・生息環境】

本種は上述したような微小な陸産貝である。これらが生息できる場所は、広葉樹林の茂る沢などの腐葉や朽木が堆積した砂礫の多い十分に湿りの保たれたところが生息地である。

【存続を脅かす原因】

森林伐採、その他の不法採集。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○																	

陸淡水産貝類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

二ナ目（中腹足目）ムシオイガイ科

オカムラムシオイガイ

Cipangocharax okamurai (Azuma, 1980)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

県東部の猿政山が基準標本産地である。県東部猿政山周辺と広島県に生息するきわめて限られた地域に生息する稀産種である。猿政山の生息地では、森林伐採や道路工事によって生息環境が悪化しており、絶滅が心配されている。

【概要】

殻は殻高4.5-4.9mm、殻径2.3-2.5mm、螺層は4.5層、低円錐形状。ムシオイガイとしてはやや大型で、殻は堅固、殻色は淡黄褐色にうすい桃色、殻形は扁平された蝸牛形、

殻口はほとんど円形、その周縁は厚く乳白色で光沢がある。底部は乳白色の滑層が著しく発達して臍孔部をほとんど閉じている。蓋は石灰質で厚く円形。軟体はうすいあめ色である。ムシオイガイという名の由来は殻口近くの体層背部縫合部に横たわる管状のものが「虫」を背負っているように見えるので、ムシオイガイと名がつけられた。

【存続を脅かす原因】

近年生息地付近は伐採が進んでおり、生息環境は著しく悪化した。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

二ナ目（中腹足目）イツマテガイ科

ヤママメタニシ

Blanfordia integra Pilsbry, 1924

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

【選定理由】

イツマテガイ科に属するヤママメタニシは、おもに日本海沿岸地域に見られる微小な陸産貝である。分布は島根県東部より日本海沿岸沿いに秋田県大平山まで点在する。基準標本産地は松江市枕木山である。

【概要】

殻は微小で、殻高4.5mm、殻径は3mm、薄質、高円錐形状で殻色は淡黄緑褐色を呈する。螺層はほぼ5層で、各層は多少膨れ縫合は深い。殻口は卵形で殻口縁は厚くならない。

【県内での生息地域・生息環境】

本種は樹上性にアオキ等の低灌木などの葉裏に付着していることが多い。県東部に生息するものはアオキの葉裏に付着していることが多い。生息地はいずれの地域でも個体数はきわめて少なくまれである。また生息地は各地とも開発が進められ、生息域は年々狭められているのが現状である。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○				○													

二ナ目（中腹足目）ゴマガイ科

オオゴマガイ

Diplommatina labiosa hirasei Pilsbry, 1909

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：-

【選定理由】

本種は県東部の限られた地域に生息する種で、基準標本産地である鱒淵寺の境内においてもなかなか見られない稀産種である。

【概要】

ゴマガイ科ゴマガイ属に属する、小さな陸産貝である。殻は約4.8mm、殻径は約2.5mm、7層で、殻は赤褐色、内唇滑層が縫合近くまで広がり、腔壁は内唇滑層の近くまでのびる。1906年（明治39年）黒田徳米博士が山陰地方と隠岐地方の陸産貝の調査をした時に現在の出雲市別所

鱒淵寺周辺において採集されたもので、それをPilsbryによって学名を *Diplommatina labiosa hirasei* 和名をオオゴマガイとして記載されたものである。

【県内での生息地域・生息環境】

基準標本産地である鱒淵寺は広大な落葉自然林に覆われてはいるが、この自然林内においても稀産である。こういった寺社叢林における自然林の現状維持を図ることが必要である。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○	○				○													

陸・淡水産貝類

絶滅 野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

ニナ目（中腹足目）ミズゴマツボ科

ミズゴマツボ

Stenothyra japonica Kuroda, 1962

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類（VU）

【選定理由】

島根県におけるミズゴマツボの出現を確認した記録は、これまでにわずか数例しかなく、生息地が局所的である。

【概要】

殻高4mm、殻幅2mm程度。微小な巻貝で、淡水域または海水の影響のある汽水域に棲息する。主として、低塩分で流れのない水域の泥上という特殊な環境に生息する。本種は、岩手から鹿児島までの11府県で生息していることが記録されている。各地の地方目録にも出現の記

録は多く、かつてはまれな種ではなかったと考えられる。しかし、近年報告された例はごくわずかであり、激減したものと推測される。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部では宍道湖および中海の流入河川河口部に生息する。県西部は不明である。

【存続を脅かす原因】

生息地の水質汚濁、河川・湖沼の改修、埋め立て。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																					○

マイマイ目（柄眼目）キセルガイモドキ科

クイロキセルガイモドキ

Mirus andersonianus (Moellendorff, 1885)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

本種は本州西部より北海道にかけて分布する。中国山地では落葉樹林帯のブナの植生の多い地域にしか生息していない稀産種である。

【概要】

殻は中小型で、殻高は21mm前後、殻径は8mm前後、7.5～8層で、殻色は濃いブドウ酒色がかった栗褐色である。口唇は白く殻口内は紫色である。中国山地では脊梁山脈のブナ林帯のブナの樹上に生息する稀産種である。夏季にはブナ樹のかなり上部まで登っている。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では船通山、大万木山、三瓶山、鷹ノ巣山、奥匹見峽、安蔵寺山などのブナ林帯に生息している。安蔵寺山は分布の西限地ということである。

【存続を脅かす原因】

現在中国山地の落葉樹林帯は年々伐採され、その他に杉檜といった針葉樹が植林されている。落葉樹林が伐採されると本種は生息する場を失うと共に、絶滅の道をたどることとなる。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

マイマイ目（柄眼目）キセルガイ科

ハンジロギセル

Pinguiphaedusa hemileuca hemileuca (Pilsbry, 1909)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：基準標本産地

環境省：絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）

【選定理由】

大田市祖式の大江高山が基準標本産地のキセルガイであり、大江高山の他、県西部地域にも生息するが、限られた地域にしか生息していない稀産種である。

【概要】

貝殻は中型で、殻高は17-21mm、殻径は3.8-4mmで細長い紡錘形状。螺層は10-11層、各層の下半部は暗赤褐色、上半分は淡黄白色と完全に色分けされる。2色に明瞭に染め分けられた美しいキセルガイである。和名のハンジロギセルはこれによる。

【県内での生息地域・生息環境】

大江高山では山麓から頂上まで自然の残る落葉樹林帯で見られる。本種は樹上性で夏季の活動期は広葉樹の古木の樹幹などに付着する。

【存続を脅かす原因】

森林伐採。ブナ等広葉樹の自然林の減少。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○				○													

陸淡水産貝類

絶滅野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

マイマイ目(柄眼目)キセルガイ科

カワモトギセル

Tyrannophaedusa kawamotoi Kuroda et Takai, 1944

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：分布限界種(北限)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

県内では県西部の益田市、鹿足郡の山間地域の広葉樹林帯に生息が見られる稀産である。

【概要】

貝殻は中型で、殻高は19-24mm、殻径は4.5-5mm、紡錘形状を呈し、重厚、堅固である。螺層は11-12層。殻表には微細な成長脈が認められる。角白色の光沢を有する。殻口はわずかに突き出て、斜位。唇縁は全縁ひろがり反転し白色の滑層がある。和名のカワモトギセルは、採集者である河本卓介氏に献名されたものである。

【県内での生息地域・生息環境】

本種の県内での生息地は、県西部の益田市旧・匹見町と鹿足郡旧・日原町、旧・六日市町、旧・柿木村の山間地に生息している。

【存続を脅かす原因】

森林伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
		○		○				○													

マイマイ目(柄眼目)キセルガイ科

モリヤギセル

Vastina moriyai (Kuroda et Taki, 1944)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

本種は広島県東部の比婆郡口和町を基準標本産地として、1944年に黒田、滝岡博士によって記載された。記載時はわずかに数個体を得たのみで、原記載文にも「今後他の個体を得て本稿のつくさざる点を補足したい」と記されているほど当時は稀産であった。しかしその後中国地方や四国で採集された。県内においても山間地において採集されるが、個体数は少なく稀産種である。

【概要】

貝殻は中型で、殻高は32mm、殻径7.8mm、12(1/3)層。

紡錘形で螺頂部は鈍く、次体層はもっとも広い。殻口は洋梨形で唇縁は全縁で白色。その唇縁はひろがり反転する。殻色は黄褐色。和名のモリヤギセルは当時広島師範学校教諭をしていた守屋勝太郎氏が本種を採集されたものであるから同氏に献名されたものである。

【県内での生息地域・生息環境】

本種は県東部より県西部に及ぶ広い範囲に点々と分布するが生息地は限られている。

【存続を脅かす原因】

森林伐採。自然林の減少。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○		○		○				○													

マイマイ目(柄眼目)キセルガイ科

オオタキコギセル(ヒメコギセル)

Digonophyx comes (Boettger, 1877)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：-

環境省：-

【選定理由】

本種はPilsbry氏が1900年兵庫県揖保郡新宮町篠首を基準標本産地として記載されたものである。県内では県東部の限られた地域に生息しているが生息個体数も少なく稀産種である。

【概要】

貝殻は小型で、殻高は13-14mm、殻径約3mmの細長い紡錘形で、暗褐色から黄褐色を呈する。殻表には粗い成長線がある。殻口は体層より前方にわずかに突き出てやや洋梨形。唇縁は白く厚く広がり反転する。上板はやや

小さく縁位。下板は引き込み上板の方へ寄る。下軸板は現れない。主襞は側位、やや長い。上下腔襞は短くやや平行である。

【県内での生息地域・生息環境】

県東部出雲地方にのみ分布するが、どちらかというとしり山間的な樹林帯や社叢林に生息が見られる。しかし近年は次第に姿を消している。松江市の城山内もかつてかなり見られたが現在ではまったくみられなくなった。

【存続を脅かす原因】

森林伐採。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○				○					○								

マイマイ目（柄眼目）キセルガイ科

シイボルトコギセル

Phaedusa sieboldtii (Kuster, 1847)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

本種は九州全域及び四国西部と中国西部（山口県）に広く分布するキセルガイで、温暖海流の影響を受ける地域に分布するといわれている。県内では県西部にはまったく見られず、県東部と隠岐（西ノ島、中ノ島）のみに生息する稀産種である。

【概要】

貝殻は中型で、殻長18mm前後、殻径は4mm前後、螺層は10層で殻色は黄褐色か暗黄褐色。殻口は卵形で、唇縁は全縁で白く厚く広がり反転する。

【県内での生息地域・生息環境】

本種の県内生息地は県東部での美保神社の社叢林を中心とした狭い範囲の自然林と隠岐（島前）に生息する。

【存続を脅かす原因】

森林伐採。自然林の減少。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			○															○			

マイマイ目（柄眼目）ナンバンマイマイ科

ヘソアキコベソマイマイ

Satsuma myomphala euomphala (Pilsbry et Hirase, 1908)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：－

環境省：－

写真 口絵29

【選定理由】

本種は隠岐諸島と島根県東部、鳥取県など限られた場所に生息している。

【概要】

殻高24mm前後で、殻径は36mmの個体が多い。殻は6～7層で、殻皮は薄く、扁平である。臍孔は半開していて、軟体は淡い飴色である。サインコベソマイマイと同種とされることがあるが、本種は殻高が大きく、臍孔が広く開く特徴がある。

【県内での生息地・生息環境】

隠岐諸島では、山地部から明るい森や放牧地、海浜部と広範囲の環境で生息を確認することができる種である。

【存続を脅かす原因】

特になし。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○			◎	◎	○			◎		○			○	○	○			○	○	○	

マイマイ目（柄眼目）ナンバンマイマイ科

ヤマタカマイマイ

Satsuma papilibormis (Kobelt, 1875)

島根県：準絶滅危惧（NT）

島根県固有評価：分布限界種（日本海側西限）

環境省：準絶滅危惧（NT）

【選定理由】

近畿地方北部より中部地方北部へとかなり広い範囲に分布するが、中国地方東部になると生息が少なくなり、島根県では県東部の山地で報告がある。県西部ではまったく見られない稀産種である。

【概要】

貝殻は殻高30mm前後、螺塔の高い卵形。殻色は淡茶褐色で、周縁に細く淡い茶褐色の色帯があることが多い。軟体部は淡茶褐色（まれに黒褐色）である。

【県内での生息地域・生息環境】

県内での生息は山地部であるが、確認情報は少ない。

【存続を脅かす原因】

森林伐採。自然林の減少。

生息地域				山地地域				里地地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○				○																	

マイマイ目(柄眼目) オナジマイマイ科

ダイセンニシキマイマイ

Euhadra sandai daisenica Kuroda, 1931

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵29

島根県固有評価：－

環境省：－

【選定理由】

本種は島根県の脊梁をなす中国山地の広葉樹林のブナ林帯に生息する大型の陸産貝である。県内の分布は限られた地域にのみ生息しているもので稀産である。

【概要】

殻は大型強固である。殻径は40mm前後、殻高は30mm前後、螺層は6.5層。螺塔はやや扁平した円錐形である。殻色は黄褐色から黒褐色で、淡黄色の火炎彩模様様が斑に美しく現れる。色帯はツクシマイマイ模様である。殻口は斜めで、周縁は幅広く円く広がり反転している。臍孔

は狭く深い。軟体部は背面中央に黒く幅の広い縦条がある。

【県内での生息地域・生息環境】

県内の分布は県東部の船通山より県西部の安蔵寺山まで広い範囲に及ぶが限られた地域にのみ生息している。個体数は少なく稀産種である。

【存続を脅かす原因】

森林伐採。広葉樹林のブナ林の減少。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○	○	○		○																	

イシガイ目イシガイ科

トンガリササノハガイ

Lanceolaria grayana cuspidata Kira, 1959

島根県：準絶滅危惧 (NT)

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

本種は本州中部以西の広い範囲にわたる河川に分布する淡水貝であるが、生息する河川や地域は限られている。県内では江の川水系にのみ見られる稀産種である。

【概要】

本種はササノハガイの地方型といわれるもので、本州中部以西と四国、九州、壱岐に分布する。河川の流水域の砂質泥底に生息する。殻は超長卵形というが、殻頂は前方に極端に片寄り、貝の姿は笹の葉のような形をしているように見えるのでこの和名がつけられた。殻の内面は美しい真珠光沢である。殻皮はピロード状で

細い成長線が密にある。殻長は70-80mm前後であるが、120mmに達するものもある。稀産である。

【県内での生息地域・生息環境】

県内で本種が採取されたのは、江の川水系の浜原ダムの下流側で採取されたのみである。江の川の上流にあたる広島県側からも本種の生息が確認されている。

【存続を脅かす原因】

水質汚濁、大雨による生息地の消失・土砂の堆積、渇水、河川改修。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
	○										○										

イシガイ目イシガイ科

カラスガイ

Cristaria plicata plicata (Leach, 1879)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵29

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

県内の河川、沼、池等によく見られる黒く大きな貝を一般にはカラスガイと呼んでいるが、それらのほとんどはドブガイやイシガイである。カラスガイの県内での生息分布は東部の限られた河川であり、稀産種である。

【概要】

カラスガイは翼卵円形で、殻長は最大30cmに達する。翼状突起の付け根には顕著なシワ状の褶曲がある。幼貝では後背縁の翼状突起が特に発達する。幼貝は緑色の入った褐色であるが、成貝になると黒褐色となる。殻の

内面は美しい真珠色である。

【県内での生息地域・生息環境】

県内ではかつて松江城山堀川に多数生息していたが、宍道湖の汽水を通水したために多くの個体を湖沼に移植されたが、その後の生息状況は不明である。県東部の平野部の河川で生息しているが、個体数は少ない。

【存続を脅かす原因】

河川改修、水質汚濁。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○																○	○				

イシガイ目イシガイ科

マツカサガイ

Pronodularia japonensis (Lea, 1859)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵29

島根県固有評価：－

環境省：準絶滅危惧 (NT)

【選定理由】

県内の小川に生息地は限定され、生息数はきわめて少なく稀産種である。

【概要】

殻は卵円形で、膨らみは弱く平たい。殻長は最大9 cmに達する。殻表には逆V字型の模様が顕著であるが、成長につれて腹縁近くの模様が消失し、平滑となる。後背縁の放射状の模様は顕著で、その間隔は粗い。小川や用水路の砂礫から砂泥底に多く生息する。2年で性成熟し、繁殖期は初夏から夏である。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では、県東部および県西部地域の小川において5河川で確認されている。

【存続を脅かす原因】

水質汚濁、大雨による生息地の消失・土砂の堆積、渇水、河川改修。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○											○					○					

イシガイ目イシガイ科

ニセマツカサガイ

Inversiunio yanagawensis (Kondo, 1882)

島根県：準絶滅危惧 (NT)

写真 口絵29

島根県固有評価：－

環境省：絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

【選定理由】

県内の小川で近年確認された種であり、生息分布は1河川のみ稀産種である。

【概要】

殻は卵円形で膨らみがあり、後縁は丸く少し湾曲している。殻長は最大7 cmに達する。殻頂付近に顆粒状の模様があり、後背縁には不明瞭な放射状の模様がある。放射状の模様の間隔は狭い。小川や用水路の砂礫から砂泥底に生息する。2年で性成熟し、繁殖期は秋が主である。

【県内での生息地域・生息環境】

県内では県東部地域の河川で、マツカサガイと同所にみられる。

【存続を脅かす原因】

水質汚濁、大雨による生息地の消失・土砂の堆積、渇水、河川改修。

生息地域				山地地域				里地域				平野地域				海岸地域					
東部	中部	西部	隠岐	森林	草原	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	森林	草原	農地	河川	湖沼	林地	草地	砂浜	河口
○											○					○					